

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2020年11月25日】第65号



収穫祭給食を楽しみました

11月16日(月)の給食は、子どもたちが稲刈りを体験した横浜市田奈の田んぼからのお米がおにぎりで登場。メニューはこの農大稲花小新米おにぎりのほか、金目鯛の西京焼き、ほうれん草のゆずおかか和え、五目ひじき、のっぺい汁、そして牛乳です。のっぺい汁には一年生が畑で育てているダイコンも入っていました。



この日、学校法人東京農業大学理事長 大澤貫寿先生と平出一馬理事長室長、さらに田んぼの勉強でお世話になった東京農業大学応用生物科学部から加藤 拓准教授、横田健治教授、野口智弘教授、山本祐司教授、また、子どもたちの「畑の先生」湯浅さんにもお客様として来ていただきました。日々、食事ができることへの感謝の気持ちを育むことを目的とし、子どもたちはしっかりと給食を味わいました。その後、1年生を対象に、加藤准教授と横田教授からは施肥や草取りなどおいしいお米をつくるために必要な水田の作業について、また、湯浅さんには畑の作業や農家の生きがいについてのお話をしていただきました。その甲斐あってか、子どもたちのワークシートを見ると、農作物を作ってくれる人々、魚や肉を提供してくれる人々、運搬してくれる人、調理してくれる人、そしていただく命について深く考えた様子がかがえしました。本校では給食の完食を目標とはしていませんが、それでも、好き嫌いなく食べよう、完食できるようになりたいと、感じた子どももいたようです。このような気持ちはぜひ、大切にしていきたいところです。

東京農業大学 応用生物科学部 <https://www.nodai.ac.jp/academics/app/>

東京農業大学 応用生物科学部農芸化学科 <https://www.nodai.ac.jp/academics/app/app/>

1年生は厚木キャンパスへ

11月17日(火)には1年1組が、20日(金)には1年2組が、自然観察のために東京農業大学厚木キャンパスの農学部を訪問しました。今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、一つの組を2グループに分け、1グループは厚木キャンパス内の生き物連携センターにおいて、デザイン農学科デザイン農学研究室土田あさみ教授のご指導のもと、学生や大学院生にもお手伝いいただき

ながら、ウマ、ヒツジ、モルモットなどに触れ、体の仕組みを学びました。もう1グループは、隣接する厚木市ぼうさいの丘公園で、農学部植物園杉山 立志准教授から樹木を使ってのご指導をしていただきました。子どもたちは、公園内の木々を観察し、落ち葉、木の枝、木の実などを使いながら、植物の観察を行いました。広々としたぼうさいの丘公園は、子どもたちが秋の植物を体験するのにぴったりの場所だったようです。

新型コロナウイルス感染防止に努めながらの校外実習ですが、今回も、厚木キャンパスのたくさんの方々のご協力により無事に行うことができました。



厚木キャンパス農学部：<https://www.nodai.ac.jp/academics/agri/>

生き物連携センター：https://www.nodai.ac.jp/campus/facilities/farm/bio_thera/

デザイン農学科生活デザイン農学研究室：

<https://www.nodai.ac.jp/academics/agri/inno/lab/304/>

農学部 植物園：<https://www.nodai.ac.jp/academics/agri/garden/>

実物投影機

11月12日(木)、本校に書画カメラ 実物投影機3台のご寄付をいただきました。ご寄付して下さったのは、教育用や研究用の理科学機器を取り扱うケニス株式会社様です。農大稲花小の教育の充実には教職員一同、日々努めているところですが、この装置では、動画や静止画として教材をモニターに提示することができ、様々な場面で使うことができます。本校の電子黒板と組み合わせて、理科や稲花タイムをはじめとする体験型の教育に大いに活用させていただくことにいたしました。



ケニス株式会社：<https://www.kenis.co.jp/company/outline.html>

今月のお米は？

熊本県益城郡山都町から、昨年に引き続き今年もたくさんのお米を頂戴いたしました。子ども

たち全員一人1kgずつのお米をプレゼントしていただき、さらに加えて150kgものお米は、本校の給食で11月17日から12月中旬まで使用させていただく予定です。これは、2019年3月に締結された、まちづくりや人づくり、有機農業の普及や振興に協力しあおうとする山都町と東京農業大学との包括連携協定のご縁によるものです。とくに、学校法人東京農業大学職員で校友でもあり、また、同町ご出身の上田 勉様のお世話になりました。子どもたちのお米は、山都町ののぐち農園様が栽培した「ひのひかり」という品種で、2000年からは有機JAS認証を取得されています。

山都町をはじめとする熊本県では2016年4月14日および16日に「平成28年熊本地震」が、さらに6月には「豪雨災害」が発生して、甚大な被害を受けました。一方、山都町は、江戸時代に農民を助けるために建設され、現在は重要文化財である通潤橋(つうじゅんきょう)などの名所が多くあります。

農大稲花小の子どもたちは、イネの品種にも、また味の違いにも興味を持っています。誰が、どういう苦労をして栽培してくれたのか、想像する力も持っています。ご家庭でも、おいしくご飯を味わいながら、阿蘇山麓にある山都町と、そこで農業に勤しむ人々に思いを馳せたいものです。



熊本県山都町：<https://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/>

注意の追いかけて

本校の子どもたちは、基本的には誰もが素直な子なので、注意をされればよく理解して従ってくれます。とはいえまだ低学年の子どもたち。時々、「注意の追いかけて」、すなわち、注意するのに注意を守らない、そこでさらに注意しなくてはならなくなる、というようにエスカレートしてしまふことがあります。大人の注意の声も自然に大きくなり、その言葉も激しく強いものになりがちです。また、「注意の追いかけて」が始まると、子どもは他人のせいにしたり、ときに嘘をついてまでして弁解したりするようになります。残念なことですね。

2学期の終わりもそろそろ見えてきました。1年生であれ、2年生であれ、注意されたことを心に留め、次からは自ら適切な行動をとれるように取り組ませる時期になってきています。低学年のうちに、注意をきちんと受け止める、なぜ間違っただ行動をしてしまったのかを考える、そして自分で自分の行動を制御する力を少しでも育てたいものです。すでにそのような成長を見せている子どもたちも少なくありません。一方で、学年が進むと、そのような力を身に着けるのが難しくなることもあります。もし、「注意の追いかけて」になりそうになったときは、声や力に

頼らずに子ども対応しなくてはなりません。何度も注意しなくてはならないという、情けない気持ち、残念な気持ちを伝えましょう。子どもの理解力不足、衝動性や付和雷同性、いろいろ、あるいは、集中力の欠如、無気力といったものが、トラブルの原因となっているのであれば、その解決から取り組む方が近道かもしれません。いずれにしても私たち大人は、いつまでも子どもの周りにいて注意を与えたり、指導をし続けたりすることはできないのです。将来、子どもたちがどのような環境で学び、仕事をし、生きていくかも予測できません。主体的に行動できる子どもを育てることの大切さを、今一度、考えてみたいものです。なお、「主体性」は、本校で育てる「10の能力」の一つでもあります。

段ボールアートがやってきた

今、農大稲花小学校の図書室前には、2メートルはありそうなシュモクザメとタコが飾られています。東京農業大学第一高等学校・中学校の美術部のお兄さん、お姉さんが作った段ボールアートをお借りして展示しているのです。初めて見た子どもたちの反響も上々。もちろん、シュモクザメ(ハンマーヘッドシャーク)の名前も知っていますし、「このタコは雌だよ」の声も聞こえます。吸盤の並び方で雌雄が区別できるとか。そして、うれしいことに「僕たちも作ってみたい」という子どもたちの声も聞くこともできました。段ボールアートは一日ではできません。そして、一人でもできません。みんなと力を合わせなければできないのです。子どもたちがじっくりと取り組み、友だちと協力して大きな作品を作れるようになる日が楽しみです。



朝小に紹介されました

朝日小学生新聞 2020年11月特別号に、本校が紹介されました。本校の教育理念をはじめ、特色ある教育カリキュラムについて、紹介されました。

朝日小学生新聞 <https://www.asagaku.com/shimen.html>

校長 夏秋 啓子